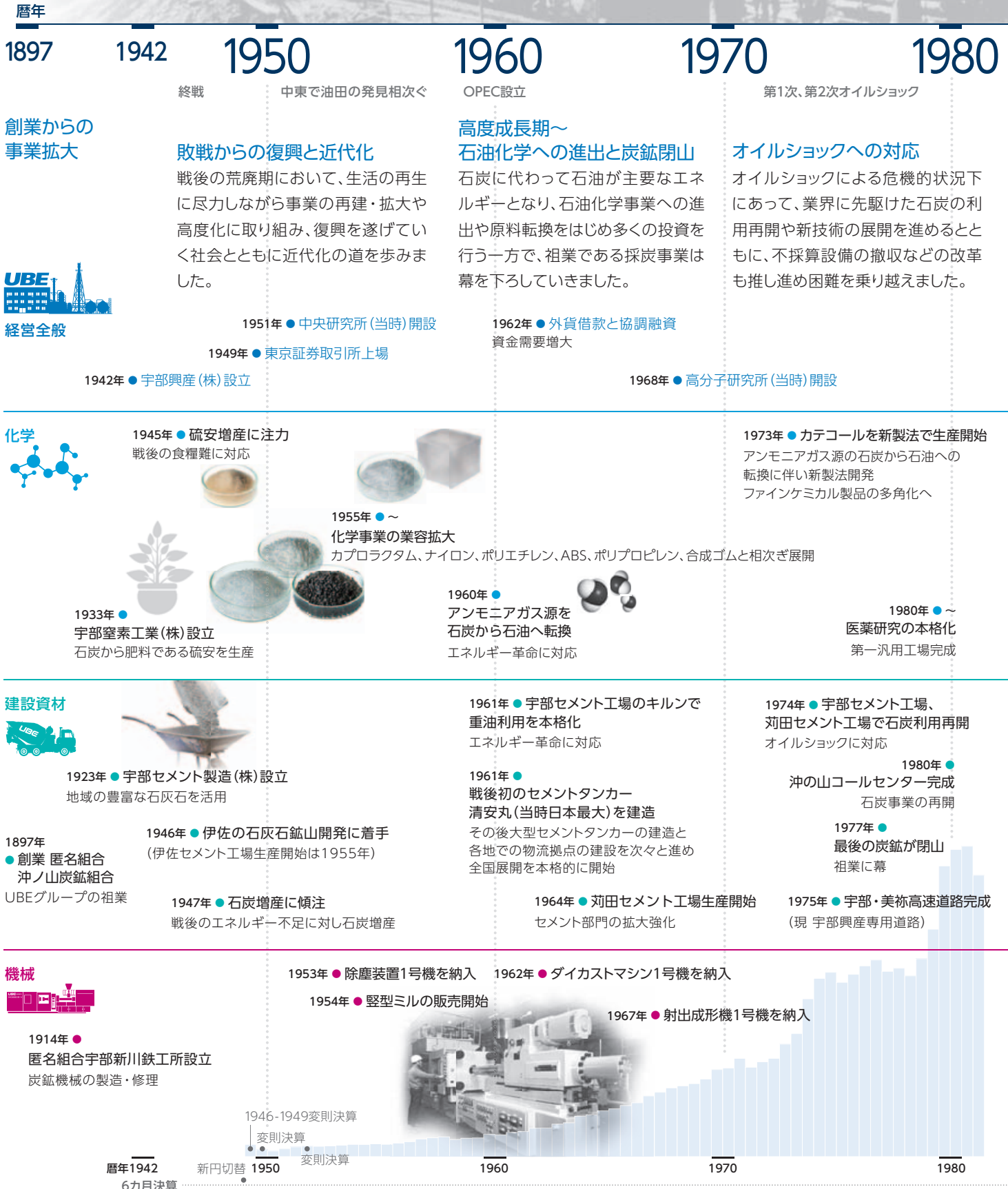


1897年～ UBEグループは宇部(山口県)での石炭採掘事業からスタートしました。



気候変動問題、新型コロナウイルス感染症の拡大など地球規模の危機に対処し、持続性を確保するための変革が求められています。

UBEグループの124年間は、まさに危機を乗り越えるための自己変革の歴史でもあり、時代の先端を支える独創的な製品開発の原動力になっています。

1990

2000

2010

2020

プラザ合意

バブル崩壊

アジア通貨危機

リーマンショック

気候変動問題

事業構造の転換と経営体制の再構築

オイルショックに続く円高不況でさまざまな合理化を余儀なくされる中、技術開発や事業拡大を着実にを行い、スペシャリティ事業の基礎を築きました。

財務構造改革

バブル崩壊後の未曾有の危機に直面するも、長きにわたって脆弱な財務構造の改善とグループ経営の強化に全力を傾け、安定した収益基盤の構築を実現しました。

持続可能な成長に向け新たなステージへ

新興国の台頭や世界的な環境意識の高まりなどのパラダイムシフトに対し、他社との協業も含めた新たな成長戦略と地球環境問題への対応を積極的に展開しています。

売上高
(百万円)
700,000

1984年 ● 初の無配

1983年 ● ~
スペシャリティ事業の展開
ポリイミド、分離膜、窒化珪素、
DMC、PCD、電池材料など



1993年 ● スペイン 1997年 ● タイ
カプロラクタム3極体制

1984年 ●
アンモニアガス源を石油から
石炭へ転換
オイルショックに対応

2001年 ●
ポリプロピレン事業を
三井化学(株)に譲渡

1996年 ●
アンモニアガス源を石炭からペトロコクスへ転換

2011年 ● ~
他社との協業による成長
セパレータ(マクセルホールディングス(株))
ポリイミド(サムスングループ)
ABS(JSR(株)/三菱ケミカル(株))
電解液(三菱ケミカル(株))など協業で競争力を強化

2014年 ● 堺工場のカプロラクタム設備を停止
新興国の大増設を受け戦略転換へ

1995年 ● 自治体からの廃棄物の受け入れを開始
資源リサイクルによる環境貢献

1996年 ● 宇部セメント工場に最新鋭NSPキルン建設
競争力向上

2020年 ●
三菱マテリアル(株)と
セメント事業等の統合を発表
製造部門等を含めた完全統合により
最適な事業運営体制を構築し
持続的な成長を目指す

1982年 ●
石炭専焼自家発電所稼働
オイルショックに対応

1998年 ● 宇部三菱セメント(株)設立
内需減少の中で競争力を確保するため
三菱マテリアル(株)と販売・物流部門を統合



1985年 ● 沖の山コールセンターや港湾設備の能力拡張
増大する石炭需要に対応

2002年 ●
バイオマス燃料の開発
環境負荷低減を目指す

2014年 ● メガソーラー運転開始
再生可能エネルギーの創出

1999年 ●
宇部興産機械(株)設立
機動的な事業運営体制へ

2013年 ●
サービス事業のグループ会社を統合
サービス事業強化へ

1982年 ●
興産大橋完成

1996年 ●
エア浮上式コンベアの販売開始

2017年 ●
三菱重工業(株)の射出成形機
事業をグループ会社化
製品ラインアップと販路拡大

変則決算

1990

2000

2010

2020

0

単体決算

連結決算